



くろさわ

いずみ

# 黒澤和泉の議会通信

## 新しい議場での初議会

4 月の選挙で当選し、新人議員として初めての議会でした。新しい議場で 6 月 16 日一般質問を行いましたので報告します。市議会の HP では動画も公開されています。



一般質問と答弁



千葉市議会 HP 録画中継



傍聴席から

## 一般質問から

# 理念に立ち返った制度の見直しを提案

## 1 投票方法のアップデートで民主主義を守る



イメージ図

現在、千葉市議会議員選挙では、候補者の名前を投票用紙に書く「自書式」が採用されています。投票結果の報告では、この方式ではかなりの無効票が発生しているようです。例えば前回の千葉市議会議員選挙では、白票を含む無効票が約 5000 票にものぼりました。また、名前が判別しにくい疑問票についても、判例や実例等を参考に開票管理者が票を判断するしかありません。

そこで、疑問票や無効票を減らす解決策として「電子投票方式」を提案しました。これは、投票所に行き、立会人のもとで投票するという部分は同じですが、投票用紙に候補者の名前を書く代わりに、ディスプレイ上に表示されている候補者名の中からタッチ式で選び投票する方式です。20 年前に施行された、いわゆる「電磁記録投票法」により、地方自治体での選挙における投票方式の一つとして認められています。この投票方式の導入により、疑問票や無効票は無くなるため、選挙人の意思を選挙結果に正確に反映できるだけでなく、開票作業が迅速化し、市職員や開票立会人の負担・経費を軽減できます。また、字を書くことが難しい方や目の不自由な方も、自分の意思を正確に伝えることができるようになります。

本市でも電磁記録投票法が施行された際、導入を検討したそうですが、費用や技術面の課題があり見送ったそうです。3 年前に国がタブレット端末を用いた投票も可能にしたことから、まずは検討の再開を求めました。

## 2 地域で子育てを支援するファミサポ制度を応援

都市化や核家族化の進行、共働き世帯の増加などから、孤独に子育てをする方が増えています。千葉市では、子育てをする方と地域で手助けをしてくださる双方を結ぶ子育て支援のファミリーサポート（ファミサポ）事業が行われています。地域の信頼できる人を紹介してもらえるこの制度は、子育て中の方の大きな助けになるとともに、手助けをしてくださる方からも、親御さんと一緒にお子さんの成長を見届けながら継続的に誰かの役に立てて嬉しい、という声も聞いています。しかし、手助けしてくれる方（提供会員）の数が少なく、マッチングが成立しにくいことが現状です。より良いファミサポ制度にするために 3 つの提案をしました。



子育てのお手伝いをしたい人と手助けをして欲しい人がつながる制度

- (1) 子どもを預かる場所について、提供会員の自宅だけでなく、保育の専門家のいる子育て支援館、リラククス館、保育施設や、地域住民のいる公民館などを積極的に利用する。
- (2) ファミサポが安心が担保できる助け合いのプラットフォームであることをより周知し、同世代の子育て仲間同士やお孫さんの子育てを手伝っている近所の方々に依頼と手伝いのどちらも行う両方会員として活用してもらえるよう周知する
- (3) まだ繋がっていない提供会員と依頼会員が交流できる機会を増やして、お互いに顔が見える関係をなるべく多く作る

## 3 緑地の価値を再評価し次世代につなげる

千葉市では、千葉市・管理団体・土地所有者の 3 者で協定を結ぶ「市民緑地」及び「市民の森」の制度により、貴重な緑地の保全と良好な環境の維持に努めてきました。しかし、土地保有者の高齢化が進み、相続等の理由による契約解除が増加しています。実際、今年度の「川戸の森（中央区）」の一部契約解除を含め、平成 28 年以降、4 箇所の解除事例があり、現在 26 か所です。

そこで緑地保全の新たな試みとして、「緑地保全を第一義とする管理団体の設立と市の協働制度」を提案しました。例えば財団法人を設立し、自治体の代わりに用地買収や保全活動を実施。その財源は、国の森林環境譲与税や千葉市の緑と水辺の基金の活用が考えられます。今後は、民間や地域住民の協力を得ながら、新たな緑地保全活動を展開できるよう、制度設計を進めたいと考えます。



現地で市民ネットの仲間と共に、保全団体の説明をうけました（左から 2 番目）

## 常任委員会から 教育未来委員会報告

千葉市の物価高騰対策として、未就学児や高校生世代に対し、ひとり一万円の助成が行われます。また保育園や子どもルームなどの保育施設の光熱費に対しても助成が行われます。委員会では、交付金が一回限りではなく持続的な支援となるように、現場での丁寧な聞き取りを行い、状況に応じて支援内容の見直しをすることを要望しました。

また、市民団体から出された二つの請願、「医療費助成対象を 18 歳までの拡充の請願」と「市立学校給食費無償化を求める請願」については、本会議での議決の結果、どちらの請願も賛成少数で不採択になりました。私は前者の請願については賛成しました。高校生はまだ成長期・思春期であり、体の変化と病気の兆候の違いがわかりづらい時期です。病気の早期発見を逃す事態を避けるためにも、助成対象の拡充に賛成しました。

また、後者の請願については反対しました。千葉市では経済的に困っているご家庭に対して既に給食費の免除制度が適用されており、無償化にかかる費用の 32 億円は、家計の負担軽減として使われることとなります。その方向性は間違っていないものの、優先順位を考えると、子どもの食事に確実につながる仕組みづくり、例えば、給食の無い長期休暇中に満足に食事を取れない子ども達に昼食を提供する仕組みや、学校に通えていない子どもたちも昼食をきちんととれるような仕組みづくりなどに予算を充たすべきだと考えました。



イメージ写真

## 黒澤和泉の議会報告と参加者のみなさんとの意見交換

9 月 10 日（日）13:30～15:00

市民ネットワークちばみはま事務所

参加費無料

申し込み 黒澤和泉事務所（市民ネットワークみはま）

TEL 043-278-5005 e-mail mihama@chibanet.jp



## 市議会議員 黒澤和泉 プロフィール

千葉市議会議員 1 期目  
教育未来委員会所属

1973 年千葉市生まれ  
幕張西小学校、幕張西中学校卒業  
東京学芸大学付属高等学校、東北大学工学部・大学院工学研究科を経て、アメリカジョージア工科大学大学院博士課程修了。工学博士。アメリカの自動車部品会社で通訳後、医療通訳の資格取得。

夫の海外勤務によりイギリス、アメリカ、ドイツに暮らす。日本に帰国後、PTA での活動を行い、2022 年千葉市社会教育委員。趣味 水泳、映画鑑賞、スロージョギング、食べ歩き

